

数字で読み解く滋賀医科大学



開学

1974年



2024年に50周年を迎えます

50周年記念ウェブサイト

湖国とともに、
世界に羽ばたく

医療のあゆみ半世紀、
さらなる飛躍へ



教職員数

(2022年5月)

1,417人

女性比率
教職員全体 62.0%
教員 26.8%

国立大学協会「国立大学における男女共同参画推進について—アクションプラン—」が策定され、毎年追跡調査が実施されています。2025年までの女性教員比率の達成目標は文化系・医科系・教育系大学では31%とすると記載されていますが、追跡調査では国立大学の上記区分では2020年は24.4%、2021年は25.0%でした。調査結果の平均値よりは上回るものの、今後も男女ともに活躍できる環境づくりを推進していく必要があります。

(⇒男女共同参画セクションp.54)

学生数

(2022年5月)

学部生 922人 大学院生 214人

医学科 682人 看護科 240人
男子学生 60.6% 39.4% 女子学生 95.8% 4.2%

博士課程 170人 修士課程 44人
男子学生 65.3% 34.7% 女子学生 79.5% 20.5%

医学科編入学率 11.9%
医学科第1学年 地域枠 11.0%

留学生比率 15.0%
社会人大学院生 72.4%

合計 1,136人

男女比
543人 47.8% 52.2% 593人
約 11 : 12

1教員あたりの学部学生数(ST比)

(2022年5月)



1 : 2.4
2.4人の学部学生に1人の教員

国立大学平均ST比 1 : 9.4 (滋賀医科大学IR室調べ)

国立大学の平均9.4人に比べ、滋賀医科大学は学生数に対し教員数が多く手厚い教育環境があると言えます。
本学ではひとりひとりの学生に丁寧な指導を心がけています。

卒業者の滋賀県内進路状況

(2021年度)



医学科

40.0%

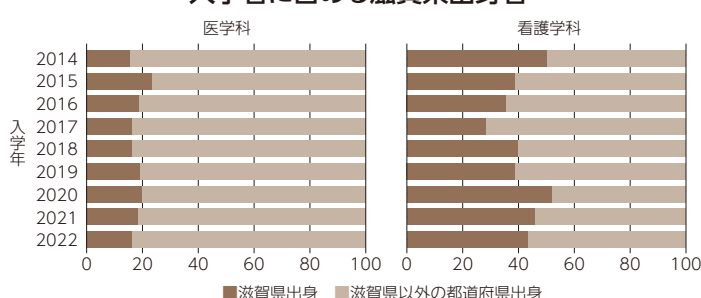


看護学科

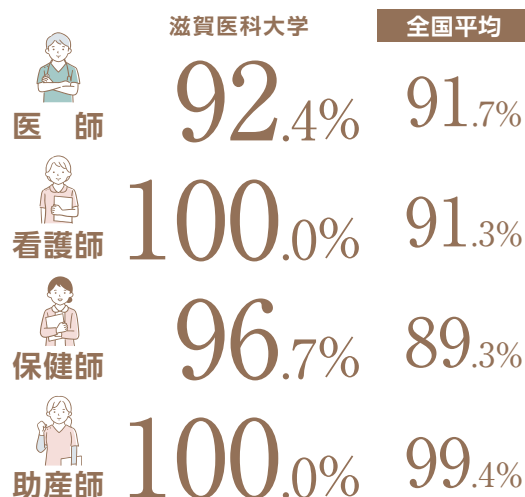
56.5%

入学時の滋賀県出身者の割合(医学科18.8%、看護学科39.7%)から考えると、滋賀県出身者以外にも卒業時、滋賀県に残っていることがわかります。それは本学の理念「地域に貢献する」に繋がっていると考えています。

入学者に占める滋賀県出身者

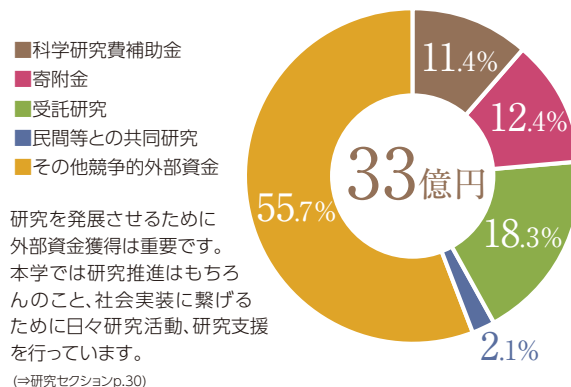


国家試験合格率 (2021年度)



2020年度の医師国家試験合格率は全国平均よりわずかに下回っていました。教育担当理事をはじめ、国家試験対策を講じ、その取組みで2021年度は全国平均を上回ることができました。今後も学生のみなさんが医療人として本学から飛び立っていけるよう取り組んでいきます。

外部資金受入額 (2021年度)



2022年8月、AMED*のワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業に採択されました。(p.39)

研究開発課題名：霊長類モデルを用いたワクチン評価に関するサポート機関
獲得金額(直接経費)：372,000千円(5年間総額)

*AMED: Japan Agency for Medical Research and Development
国立研究開発法人日本医療研究開発機構

科学研究費採択率 (2021年度)



科学研究費採択率は全国平均を上回って外部資金を獲得し、医学・看護学の研究を進めています。

特に「若手研究(38.1%)」や「研究活動スタート支援(35.7%)」の採択率が高いのが本学の特徴です。若手研究者の育成に力を入れています。

(⇒研究セクションp.30)

特許の実施許諾率

大学ファクトブック2022((一社)日本経済団体連合会)

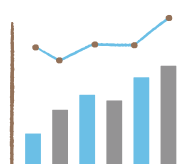


(国内全大学中)

特許保有件数は総合大学と比べ少ないですが、実施許諾率は高く、研究成果が社会に還元されていると言えます。



経常収益 (2021年度)



財務情報セクション(p.68)をご覧ください。

詳細は財務諸表をご覧ください。



Times Higher Education 世界大学ランキング 日本版2022

分野別ランキング
「教育リソース」



第10位

教育リソースは学生一人あたりの資金や教員比率などのデータから、どれだけ充実した教育が行われている可能性があるかを表しています。